

どの子だって4ヶ月になるのに

センターでは 子犬の譲渡会が行われています。人気があるのは2ヶ月くらいの子犬。子犬も4, 5ヶ月になると残ってしまうことが多く、ペットショップと同じです。



検疫室の子犬



譲渡会に出る子犬



譲渡会で残った4、5か月の子犬

収容される子犬があまりに多いので 捕獲された4ヶ月すぎの子犬は成犬と同じ収容室に入られます。



月齢が少し大きいため 収容室に入れられた子犬たち

飼い主の持ち込みは 「翌日 殺処分」という説明を受けた上で 最終部屋へ直行します。

そして、引き取りの声がかからなければ、 成犬と同じように殺処分されます。

一方、東京都では希望者に対して子犬の数が全く足りないのです。(平成20年度 東京都の子犬譲渡数34匹)



写真左:赤い円の中は 兄弟4匹と一緒に 飼い主に持ち込まれ、最終部屋で固まる子犬。
飼い犬が産んだ子犬4匹。10キロくらいに見え、子犬として譲渡するには大きい兄弟です。明日処分になると説明をしましたが、飼い主に最終部屋まで連れてこられました。
写真右:4匹とも検疫をお願いしました。
震える子犬をみかねて、検疫をお願いし、4匹の兄弟は処分を免れました。
しかし、その分、捕獲の子犬たちまで引き受けることができなくなってしまいました。
椅子取りゲームと同じことです。
ボランティアのキャパは限られているのです。



検疫が明け、預かり家庭へ移動した4匹
写真左から
自(ころ)、架(ませ)、パーチャ、ハイジ。
自(ころ)架(ませ)は神奈川県で、
パーチャとハイジは八王子市で、
家族として ずっと共に過ごせる
いぬ親さんを待っています。

殺処分の一步手前で救われた幸運な子犬たち。
しかし、ボランティアが引き取れる犬の頭数は限られています。
ほんの少し月齢がっているだけの理由で
殺処分になってしまった子犬たちもたくさんいるのです。